

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600251		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム 笑顔の村 三番地		
所在地	石狩市樽川3条3丁目4番		
自己評価作成日	平成25年8月20日	評価結果市町村受理日	平成25年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑う」という人間が持つ素晴らしい力、「笑顔」が人を癒す力、そんな人を幸せにする「笑顔」をスローガンにしています。暮らされる方、働いている職員、お越し下さる方全員が「笑顔」になれる、「笑顔の村」を作っていきたいと全職員で取り組んでいます。また、家庭的な雰囲気の中で、心穏やかに充実した日々を送れる様に全職員で取り組んでおり、事業所の理念である「明るく笑顔であいさつ。今出来る事を大切に。安らぎのある日々。」この理念に基づき、近隣の方々に色々と教えて頂きながら、町内の夏祭りや敬老会等に積極的に参加させて頂き、地域の一員として、地域の方々との関わりを大切にしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tue&JigyosyoCd=0177600251-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 25 年 11 月 1 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境の良い立地で9名の利用者が笑顔に包まれ安心して暮らせるホームです。1階がグループホーム、2階が高齢者共同住宅になっており利用者間の交流や避難訓練の合同実施など相互で協力体制がとれています。事業法人のホームページから系列内各ホームの情報が見れることや、パスワードの入力で個別の情報を取得できるなど、個人のプライバシーにも配慮されています。運営法人は利用者家族へのアンケートによる意見を取り入れ、より良いホームの運営になるように努力をしています。そのことが家族の安心にもつながっています。管理者と職員がいつでも利用者として優しく笑顔で接している暖かな雰囲気のホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域での暮らしや生活を継続出来る様、事業所独自の理念を作り上げている。また、理念に基づいた支援などを常に心掛けている。	リビングにはホーム並びに運営法人の理念が額に入れて掲げられています。理念等は利用者や家族に対して入居前に説明しています。職員は理念を日々の実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭りや敬老会等に参加したり、近隣を散歩したり、町内の方々と言葉を交わしたりしている。	ホームの除雪を町内の業者と契約したり、町内の掃除や祭りに参加しています。散歩の際には近隣住民に挨拶したり、地域に暮らしている意識で近所付き合いをしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域の皆さんにホームで役立つ事があれば、積極的に協力したいという事を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見をミーティング等で全職員に伝え、話し合い、サービスの向上に繋げている。	町内会役員や市の高齢者支援課職員、利用者も参加して隔月毎の運営推進会議では、ホーム行事を動画で見てもらっています。また、行事の予定やヒヤリハットの報告では参加者から意見を頂いてホームのサービス向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市で行われている連絡会議に参加しており、気軽に相談や現状を報告している。	市の介護相談員が年2回訪問してホームとの連携をとっており、相談により改善された事例もあるなど、行政との協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止マニュアルがあり、それを基にミーティング等で研修している。また、全職員が身体拘束のないケアに取り組んでいる。	外部の身体拘束防止のための研修に行った職員が、内部会議等において研修内容の報告をしています。また、内部研修でもマニュアルを用意し随時研修の機会があります。玄関は、大型車両の通行する道路に面しているため施錠していますが、利用者の外出や散歩に支障のないようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、虐待やそれに繋がる行為がないか、ミーティングや申し送り等で常に職員は話し合い、研修している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がおり、市で行われる研修に参加したり、勉強会で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、わかりやすく、十分に説明している。また、不安があれば、いつでも連絡が出来る様な関係と体制を契約前から作っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、意見、不満、苦情を気軽に言える様な雰囲気作りを行っている。また、アンケートを実施し、その結果をミーティング時に職員全員で話し合い、運営に反映させている。	運営法人から年に1度、家族あてのアンケートを実施して意見の集約に努めており、運動の機会を増やすなど実現しているものがあり、運営等に反映されています。家族の面会時は気軽に意見を頂いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図る様に努め、職員の意見を聞く機会を作っている。また、個別面談の機会を設け、ホームの運営に反映させている。	毎月のミーティングや、日々の申し送り等で職員からの意見がでています。意見は記録されて緊急性のあるものから検討され運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は日常的にホームに来て、職員一人一人に声を掛け、職員の努力や勤務状況を把握しており、時給を上げたり、役職を就け、手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市や民間で行われている研修会に参加しており、ミーティング等で全体に報告している。また、実践者研修、実践リーダー研修を計画的に受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市で行われている管理者会議やスタッフ交流会に参加したりし、他の同業者との交流をする事により刺激を受け、より良いサービスが出来る様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と計画作成担当者が本人と面談し、要望や不安等を聞く機会を設けており、安心して暮らせる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時にお会いしたり、面談の際に要望や不安等を聞く機会を設け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いや状況を確認し、改善に向けた支援を行っている。また、早急に対応が必要であれば可能な限り、他のサービス事業者と連携を取り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りやおやつ作りの際に、味付けや調理法を教えて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化があればすぐにご家族に連絡し、利用者の状況等を小まめに伝えたりしている。また、毎月の行事と一緒に参加して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がホームに来られたり、馴染みの方と電話をしている。また、地方から面会に来られた方が利用者の居室に泊まる等、関係が途切れない様努めている。	利用者の希望や家族からの情報で、友人の家へ同行したり、以前住んでいた場所に行ってみるなど、本人の望む関係継続の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係性を把握しており、一人一人に役割を持って頂き、また、会話や物作り等、職員が橋渡しになり、孤立せずに関わり合える様、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後も電話をしたり、ホームに遊びに来て頂ける様な取り組みを行っている。病院に入院となった方には、利用者全員と作ったお見舞いの品を持参したり、面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めている。困難な場合は、ご家族から情報を得たり、日々の様子を観察し、本人本位に検討している。	利用者や家族からの情報で、縫い物や習字、室内でのパターゴルフなど、利用者がやりたいことを実施できるように支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からお話を聞き、話しやすい環境に配慮しながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、異変があれば介護記録に記入し、申し送り等で全職員が把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わり合いから、本人、ご家族の意見、意向を聞き、職員全体でアセスメント、モニタリング、カンファレンスを行い、3ヶ月毎に作成している。	利用者の担当職員がケアマネジャーや管理者と相談し介護計画の原案を検討し、職員等全員の意見を踏まえると共に家族の要望を取り入れた介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、事業所独自の介護記録に、日々の暮らしや変化をわかりやすく記録している。また、業務日誌や連絡ノート、申し送り等で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関と連携し、訪問診療、緊急時の往診、また、通院等の職員の柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じ、訪問理美容、訪問歯科、介護タクシーを利用し、また、ボランティアを受け入れ、津軽民謡やフラダンスを披露して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療の他にも、電話で相談できる体制が整っている。また、ご家族の希望があれば、医師からの病状の説明等をして頂き、良い関係を築いている。	利用者全員が隔週の訪問診療を受診しています。それ以外の通院の場合は家族対応ですが、家族が行けない場合は職員等が同行支援し、受診内容は家族へ報告しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護職員と連携が取れており、また、月8回、訪問看護師も来られ、医療の活用や日常の健康管理について気軽に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関、協力医療機関、ご家族との連携を密にし、出来るだけ早期退院出来る様に努めている。また、利用者一人ひとりの救急医療情報の書類を作成し、情報交換に活用している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、協力医療機関、ご家族、職員の話し合いの場を設け、慎重かつ適切に対応している。協力医療機関と連携し、チームでの支援が出来る様にしている。	「重度化した場合における対応指針」と「終末期の対応に関する意向確認書」をホーム利用開始時に家族へ周知すると共にそれに関する意見をいただき、どのような事を望んでいるのかを確認しています。ホームでは看取りの経験もあり看取りは対応できます。	前回の看取りをした時のスタッフが半数以下のため、経験のない職員に看取りの研修をすることで、いつでも対応できるような体制にしておくことが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の研修会に積極的に参加しており、急変時や事故発生時の対応については、マニュアルや連絡網等を整備しており、ミーティング等で研修している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署に協力して頂き、避難訓練を行い、運営推進会議を通して、近隣の方に協力を得られる様に働きかけている。	年に2度、上階の高齢者住宅と共同して避難訓練が行われています。災害時用のカセットコンロ、ポータブルストーブ、水、数日分の食糧等の備蓄があります。	避難訓練時には近隣の協力がいただけない状況にあるため、町内会役員等の参加協力をいただけるよう地域との密接な関係を作り上げることが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りの時は、個々の名前を出さない様にし、浴室や洗面所はカーテンで仕切り、プライバシーに配慮している。	職員は利用者によりわかりやすい言葉で優しく話しかけ、利用者の尊厳を損ねない対応をしています。難聴の利用者には近寄り耳元で話しかけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立に利用者の要望を取り入れている。また、行事等で欲しい物を選んで頂いたり、食べたい物を選んで頂く等、利用者が自己決定しながら生活出来る様、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	廊下にソファがあり、利用者同士が談笑したり、リビングでテレビをみたり、おのおの自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的になじみの美容室に依頼し、訪問美容をして頂いている。また、外出時に一緒に服を選び、オシャレを楽しんで頂ける様、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める際に、利用者の食べたい物を聞き、献立に取り入れています。誕生日には、本人が好きな物を聞き、献立にしています。	利用者と同じテーブルで職員が食事介助や見守りをしながら、楽しそうに食事をしています。家族や本人から好物を聞いて外食やメニューに取り入れています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量をチェック表に記録し、全職員が把握している。また、好みの飲み物等、習慣に応じた支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の歯科衛生士の指導を受け、一人一人に合った口腔ケアを支援している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握しており、さりげなく声を掛け、気持ち良く排泄できる様、支援している。	全利用者の個人記録簿に排泄の記録を記載しています。職員はそれを見ながら個別のパターンを考慮して、スムーズなトイレ誘導やパット交換をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳を飲んで頂いたり、食事は、食物繊維を多く摂るように留意している。また、ホーム内の散歩や体操等、体を動かす事を日課としている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めていますが、希望の順序や好みの温度に設定し、支援している。	月木と火金の午後、利用者毎に週2回を目途に入浴をしています。保湿目的で入浴剤を入れた湯は利用者の楽しみにもなっています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを把握し、状況に応じて睡眠や休息出来る様、支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬がわかる様にファイルしており、職員全体で把握している。また、服薬して症状に変化がある場合は、直ちに協力医療機関に報告している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の得意な事、自主的に行っている事を役割として持って頂いている。また、様々なレクリエーションを行い、季節を感じて頂ける様、支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や意思を考慮し、日常的に散歩等をしている。	冬期間以外は町内を散歩しています。台所の勝手口から屋外にてパラソルの下で談話したり、歩行が困難な利用者でも外気を浴びたり日光浴が出来るよう支援をしています。外出行事では外食をしたり、花見や複合型スーパーに行くこともあります。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に応じ、少額のお金を管理して頂いている。また、行事として買い物ツアーを行い、欲しい物を選んで頂き、ご本人に支払いをして頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという希望があれば、プライバシーに配慮し、自室で出来る様、コードレスフォンにしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、利用者が書いた書道や季節に合わせて折り紙で作成したものを飾っている。また、利用者が居心地良く生活出来る様な環境整備に、職員はミーティング等で検討し、工夫している。	共有空間のリビングは利用者毎の作品展示のスペースもあり、毎月の習字の作品が飾ってあります。季節毎の飾りもあり、金魚の飼育も利用者の楽しみになっています。不快な音や匂いもなく、イオン発生機つき空気清浄器もあります。温度や湿度も適正に管理されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の奥にソファを置くなどして、思い思いに過ごして頂いている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、今まで使っていた物や好みの物を持って来て頂いており、その人らしい居室になっている。	利用者の居室には大きな収納ダンスと洗濯物をかけるポールが設置されています。どの居室も利用者の馴染みのものが置かれて安心して暮らせる安らぎのある部屋になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、安全で自立した生活が送れる様な環境を作っている。			